

ムハマッドイルファンさんと私
—優しくて、気遣いのできる人—

グループ G 会津朱音

1. 第一印象

グループのみんながラフに会話をしている中でも「はい」「です」など丁寧な言葉遣いをしている時が多い。遠慮しているのか自己主張があまり強くない。例えば、散歩で寿司を食べに行くと決まった後に「寿司は好き？」と聞いたら「あまり好きではない」と答えていた。先に言ってくれば別のお店に行くこともできたのにと申し訳なく思った。肉を食べない、断食をするなど宗教の教えをしっかりと守って生活していると話していたので真面目な人だと思った。ボーリングがとても上手だった。ボールに回転をかける技を持っていて、みんなにやり方を丁寧に教えてくれた。普段はあまり感情を大きく表さないことが多いように思うが、ボーリングの最中はテンションが高めで、喜んだり落ち込んだりと感情をストレートに表していた気がする。また、ポスターをつくる際に紙を切る場面があり、私ははさみを持っていなかったので手で折り目をつけて切ろうとしていたら定規を貸してくれた。気が利くし、よく気が付く人だなと思った。

2. 特に聞きたいテーマ —友達—

友達の気持ちを傷つけないようにする、友達を大切にすることということをいつも意識していると話していた。また、親しい友人と話すときでも話し方に気を付けたり、困っている時にはいつでも心配したり助けてあげたりしていると話していた。このことから常に友人に気をかけ、傷つけないようにいたわっていて、心から友達を大切にしていることがわかる。また、第一印象で「気遣いのできる人だ」と感じたが、友達と関わる時に「気遣い」は必ず必要になる事柄だと思う。よりイルファンさんを知ることができると思い、このテーマにした。

3. 話し合いの結果

3.1 6月6日の話し合い

アメニティで秋田やマレーシアの暑さなどの世間話をふまえた和やかな雰囲気です話をしました。

マレーシアでは地域によって言語が違い、同音異義語があったりするので自分と違う地域出身の友人と話す時には誤解が生まれないように気を付けて話していると丁寧に説明してくれた。友達を大切にすると友達になりたいそうだ。自分が友達になりたいと思った人には、第一印象で安心感を持ってもらうためにさらに話し方に気を付けていると話していた。

高校3年生までは体が弱くてあまり友達と遊んだりすることが出来なかったが、4年生の時に友達にバスケットボールを教えてもらい、遊んでいるうちに徐々に体力がつき、他のスポーツもできるようにいなり友達とも遊べるようになったそうだ。それがきっかけで自分に自信が持てるようになったと話していた。マレーシアでは2年間日本語を学んでいたが、そこではクラスのみならず友達になることができたそうだ。

マレーシアの友達とはメールでのやり取りをよくしていたが、日本に来てからはメールが出来ないので、現在彼らとは Facebook や Twitter で連絡を取り合っている。せっかく日本に留学に来ているのだから、マレーシア人の友人と北海道や沖縄に旅行に行きたいと話していた。

秋田大学では留学生とは仲良くなっているが、まだ日本人の友人は少ないそうだ。イルファンさんはまだ自分の日本語に自信がなく、恥ずかしいので日本人と友達になるのは難しいと言っていた。

私はイルファンさんの話を聞いて、私も友達と話す時に言葉に気を付けるということを常に意識しているつもりだが、イルファンさんは「言語のちょっとした違いで誤解を生まないように、親しい間柄でも気を付ける」と言っていたので、私の何十倍も気を付けて友人と接しているのだと思った。それと、Facebook や Twitter がなければイルファンさんはマレーシアの友人と連絡を取ることが難しかったと思うので、それらがあって良かったと思った。

3.2 6月13日の話し合い

食堂で、ラフな雰囲気話した。

マレーシアで友達と遊ぶときは映画を観に行ったり、バドミントン、サッカーをしていた。日本ではご飯を食べに行ったり、ゲームをしたり、バドミントン、サッカーをする。友達が弾くギターに合わせて一緒に歌うこともあるそうだ。

イルファンさんにとって友人とは、クラスで隣の席になったり、話したりする人で、先輩・後輩も友人に含まれる。あいさつをする程度の人は知人である。

友達と家族ではどちらが大事か聞いたら、少し考えてから、どちらも大切に選ぶことはできないと答えた。友達も家族と同じくらい大切な存在だそうだ。

親友はお互いのことを親友と思っていなければいけない。だから相手が自分を親友と思っているかわからないので親友と呼べる人がいるかはまだわからないと言っていた。

古くからの友達も大事にするようにしている。一番仲が良いのは中学校から一緒の人で、現在も Facebook でやりとりしている。けんかすることもあるが、反省して自分から謝ることが多く、仲直りしてさらに仲が良くなるそうだ。

ロンドンに幼いころ3年間住んでいた。その時できた友達と14年ぶりに日本で会って感動したと、笑顔で声を弾ませながら話してくれた。

私は、家族と同様だと思える友達は数人しかいないし、幼いころの友達とは最近連絡を取っていないので、イルファンさんはすごいと思った。それに、私はけんかをしてでも照れくさかったり、意地をはってしまったりしてなかなか自分からは謝れないので、自分から謝るイルファンさんを見習いたいと思った。

4. まとめ

イルファンさんにとって友達は本当に大切な存在だということがわかった。イルファンさんは、体が弱かった時に友達がバスケットボールを教えてくれて体力がつき、自信を持てるようになったと話していたが、それは友達を大切にしようと思った理由のひとつではないかと考えた。また、イルファンさんは自分が友達を大切にしている理由はあまりよく

わからないが、相手も自分のことを大切にしてくれることを信じて友達を大切にすると考えていた。このことから、友達は自分を助けてくれる大切な存在であり、だからこそイルファンさんも友達を大切にするのだと考えた。

インタビューをしてみて、イルファンさんは気遣いができ、礼儀正しい人だと改めて思った。だからこそ友達を大切にできるのではないかと考えた。幼い頃からの友達を大切に、友達とはいえ話し方に気を付けるなど、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉が実践されているように感じた。

今回、イルファンさんにインタビューをしてみて、私にとって友達はどのような存在なのか考えさせられた。私も「親しき仲にも礼儀あり」という意識を持ち友達を大切にしているつもりだ。しかし、イルファンさんの話を聞いてからそれほど友達を大切にできていないのではないかと考えた。最近では幼いころの友人とは疎遠になってしまっているし、普段の会話の中では、思ったことをすぐ口にしてしまう時が多いので知らず知らずのうちに相手を傷つけてしまっているかもしれない。また、生活を振り返ると友達のことよりもまず自分というような、自己中心的な考え方をしてしまう場面が多い気がする。友達に支えてもらったり、助けてもらったりしているということを常に意識し、私も友達の力に少しでもなれるよう行動するというように意識を改めていきたいと思う。

5. 授業を終えて

5.1 文化、コミュニケーションとはなにか

この授業を受講するまでは「文化」を「日本文化」「中国文化」などの大きな枠組みとして捉えていた。しかし今は、一人一人が今までの人生で造り上げてきた固有の文化を持っているということに気付き、それはその人を知るための大切な手がかりになると思った。コミュニケーションは、相手を知ろうという気持ち、自分を相手に知ってもらおうという気持ちがあって初めて成立するものだと考える。授業を通して、インタビューする立場とインタビューされる立場という両方の立場を経験してそう思った。あまり考えずに適当に質問を投げかけても相手は質問の意味を理解できないし、なんとなく質問を受け止めるだけでは答えを出せない。両者がきちんと向き合って積極的にやりとりするからこそコミュニケーションは成立すると考える。

5.2 授業について

インタビューする際に、テーマに沿って具体的な質問をするのが難しかった。

一人の人が持つ独自の文化を深く知るというのは今まであまり意識してやってこなかったののでいい経験になった。私は人見知りをしてしまうので、最初はグループの人と打ち解けられるか心配だった。しかし相手のことを知ろう、自分を知ってもらいたいという意識を持つだけで自分の態度や行動が変わってグループの人とすぐ打ち解けられたので、自分の新たな一面を発見できて良かった。 b